

令和 5 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームサンフラワー

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200079		
法人名	社会福祉法人若竹会		
事業所名	グループホームサンフラワー		
所在地	〒027-0048 岩手県宮古市板屋四丁目4番2号		
自己評価作成日	令和5年10月23日	評価結果市町村受理日	令和6年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

□ご利用者の在宅での生活歴を大切に、一人ひとりの思いに寄り添えるよう、余暇支援や季節の行事などを工夫しています。また、社会との関りも絶やすことなく地域行事などには積極的に参加しています。

□ご家族とは毎月の面会時だけでなく、定期的に写真付きのお手紙をお送りして、情報を交換し、ご利用者とご家族に安心して頂けるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で地域の団体等との交流の機会が制限されているものの、リモートでの小学校との交流を継続し、面会や買い物、ドライブ、認知症カフェ、地域のお祭りなどの行事にも参加の機会を提供されている。法人基本理念「いたわりとやさしさ」の実現に向け、「経営・支援・地域社会・福祉人材」に対する4つの基本方針のもと、当該事業所は、「支援」、「福祉人材」を重点目標に取り組んでいる。「私の出来る事・できないシート」を作成し、随時、職員が気づいた入居者の変化等を更新・共有しており、また、「昔取った杵柄シート」で一人ひとりの生活歴や習慣、呼称などを把握し、日々の支援に活用している。入居時に、想定される身体の変化や、重度化への対応などについて説明し、入居後も家族との面会、通院の都度、心身の変化や今後想定される課題に対し、家族と一緒に考え、不安への対応にも努めている。緊急時を含め、随時、法人内の看護師、管理栄養士、柔道整復師等専門職との連携、バックアップ体制が確保されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月22日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の運営方針をいつも目に付きやすい場所に掲示し、職員間で共通の認識を持った上で共有と実践に努めている。	平成20年より現在の法人理念「いたわりとやさしさ」を継続し、全国経営協のアクションプランをベースに中長期計画を策定し、「経営・支援・地域社会・福祉人材」の4つの基本方針に沿って、各年度の事業計画を策定し実践している。理念、基本方針はスタッフルームに掲示し、毎月の業務会議において、事業計画の進捗を確認し、四半期ごとに振り返り、評価を行い理事会での報告を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ流行による為、地域の行事などの開催がなく、交流の機会が持てない状況にあるが、リモートなどを活用して地域の小学校の児童との交流に積極的に取り組んでいる。	地元小学校とは長年交流があり環境整備や合唱などの訪問を受けている。コロナ禍の現在は、リモートでの交流をしており、地域の行事(盆踊り)に参加する利用者もおり、散歩や買い物で地域の方や顔なじみの方のおしゃべりを楽しむ利用者もいる。2ヶ月に1回、地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加し、事業所紹介や、理解促進にも取り組んでいる。母体施設サンホームに隣接する県立高等看護学校生の実習生を毎年受け入れている。	事業所の理解を更に深めてもらうため、自治会区内回覧物にあわせ事業所広報紙を配布回覧するなど、地域へのさらなる情報発信について検討されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元住民によるお喋り倶楽部との交流もコロナ禍の為実現できていない状況で、交流の機会を設けることが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動内容やご利用者の状況を報告し、委員の方から率直な意見や助言を頂き、業務に活かしている。	コロナ禍ではあるが、今年度は、対面での会議を開催し職員も交代で出席し記録を行っているほか、会議録は事業所内で回覧し次回運営推進会議でも報告している。運営推進会議メンバーでもある自治会長は、認知症カフェにも参加されている。近隣の駐在所からは、定期巡回をしていただいております。さらに認知症カフェにおいて、「詐欺、交通安全」についての講話をしてもらったり、困りごとの相談等に対応していただいております。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホームサンフラワー

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で活動状況を報告し、助言を頂いている。他にも分からない事がある時は、市役所介護保険課担当者に随時連絡をとっている。	介護関連の情報等は、運営推進会議等でも市介護保険課、地域包括支援センター(市社協)職員等と連携をとっている。地域ケア会議には、法人の居宅介護支援事業所からケアマネが出席している。法人本部を中心に市の介護保険計画策定における情報交換や物価高騰に対する市の助成事業への資料提供などでも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束委員会」からの助言・情報を反映させながら身体拘束をしてはいけないという事を職員一人ひとりが理解し、窓や玄関なども施錠せず抑圧感がない普通の暮らしを支援している。	法人の身体拘束廃止委員会に年4回管理者が出席している。入居時の重要事項説明書には、身体拘束に関わる3項目(緊急性、非代替性、一時性)を明記している。身体拘束廃止に係る指針や各マニュアル等は、法人内のパソコンシステムで常時閲覧、管理している。高齢者事業部門で構成する権利擁護委員会にも職員が出席し、各事業所の課題等の協議、研修内容等を事業所にフィードバックしている。定期的に委員会主導でスピーチロックに関する自己チェックを行い、適切な言葉遣い等、日々のケアの振返りに活用しているほか、身体拘束、虐待防止等の研修を実施し、毎年全職員が受講している。転倒の恐れがある利用者に、居室内にセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待といった人権無視のケアはあってはならないことと認識し、業務の中で不適切と思われるケアを放置せず注意をし合うほか、カンファレンスの中でケアを見直す取り組みをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修を通じて学んだ制度の理解や知識を、支援が必要となった場合は、助言や橋渡しができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際は十分な説明を行い、納得を得た上で手続きを進めている。料金改定の際は、文書通知や来訪時に説明し、疑問な点があれば応えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回を予定していた家族懇談会はコロナ感染症対応により中止しているが、ご家族に運営推進会議の資料を送付、施設運営や活動状況について定期的に知らせている。また、面会や通院付き添いなどの来所時にはご家族より要望等を受け対応をしている。	ほとんどの入居者は会話可能である。年2回家族懇談会を設け、会食や交流を行っていたが、現在は中止している。日常の面会や通院後に管理者が同席し、近況や今後の暮らし、見通し等について、意見、要望を聴き取り、ケアプランに反映させている。また、面会時には本人ご家族の写真を撮って提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善会議やカンファレンスを通じて、ケア実現の職員の意見を聞き、モチベーションやケアの質の向上につなげている。会議に参加できない場合も意見等のメモを活用し、全員の意見を反映するように努めている。	毎月開催する業務改善会議、ケアカンファレンス会議等で意見、要望を確認している。管理者との個別面談を年2回予定しており、各自が希望する研修や資格取得等に関する要望を確認し、各種助成等職場、法人としてスキルアップの促進、維持を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や聞き取りを通じて、各職員希望や提案等を把握したり職場全体でワークライフバランスの取り組みを実施し、職場環境につながるよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量の把握に努めているが、法人内外の研修への参加が難しい。これまでに業務改善会議内で、栄養・衛生管理についての研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症対応により、他施設との交流が実施できていない状況であるが、最寄りの地域包括センターとの連携・関係の構築に取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族から事前の情報や要望を確認し、ご本人らしい生活や思いを感じ取り、徐々に馴染みの関係を築いている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、グループホームでの生活やケアの方針についてできるだけ詳しく説明し、ご家族に戸惑う点や要望に耳を傾け、関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の生活も大切にしながら新しい環境に早く馴染んで頂けるよう支援の工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活歴や得意なことを活かしながらリハビリにつなげ、ご利用者同士がお互い思いやりながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が途切れないよう通院対応は可能な限りご家族に行き添っている。面会制限を設けており、面会の機会を十分に取れなくなっている分、ご家族との連絡は積極的に行いながらその関わりを大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅で過ごされていた頃の友人や、ご近所の方との関係をいつまでも続けられるようにしている。	家族のほか、ご近所や同級生、幼馴染の方の面会や電話でのつながりが続けられている。近所の理容業者が出張しており、希望される利用者は、行きつけの美容院に職員が付き添っている。また、通院帰りに馴染みの理美容所に寄ってくる利用者もいる。春には浄土ヶ浜、秋は紅葉見学にゆったり館に出掛け、産直での買い物や外食を楽しんでいる。コロナ禍前は、ボランティアでハーバリウムや、ペットショップによるアニマルセラピーの訪問も受けていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や認知レベルに配慮したり、ご利用者同士の関係の理解に努め、ご利用者同士が関わり合えるよう職員が橋渡し役をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移行先の生活相談員やケアスタッフとの情報交換の場を持ち、ご本人の状況やケアの工夫等の情報を詳しく伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、ご利用者と会話しながら思いや意向を明らかにしている。	「家に帰りたい、家で暮らしたい」などを希望される利用者が多い。希望や要望は、各職員が記録し共有している。利用者一人ひとりのケアの留意点、健康面や日常生活でのポイントなど一目でわかる「私ができる事・できない事シート」を作成し、職員が日々のケアで気づいたことやケアカンファレンス等で振り返り、更新の上日常の支援に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に調査を行い、ご本人の生活歴や馴染みの暮らし方を把握している。また、ご家族が面会に来た際にも在宅生活をしてきた時の話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の能力や、できる事の発見に努め、「私のできる事、できない事シート」で現状把握に努めている。状態が変化した場合はカンファレンスを実施、支援方法を検討したり、シートの内容も随時更新している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員は、利用者との関りの中で、利用者個々の今できている事に視点を置き状況を把握している。そしてカンファレンス内で職員同士が情報共有と協議を行い、現状に合わせたケアプランとなるよう内容について検討している。	ケアマネジャーが利用者の生活歴や家族の意向を聴き取り、原案をケアカンファレンスで協議し、家族の同意を得て作成している。利用者本人の得意とする家事や、出身地の話題など具体的な内容を盛り込んだ本人と分かるようなプランに留意している。本年度の重点事項として、テレビに頼らない活動、家事への参加、歩行に視点を置いたケアプランに努めている。家族等への説明には必ずケアマネジャー(管理者)が行い、郵送の場合には添え書きを付け説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の変化、その他気づいたことなどは、ケース記録や申し送りをし職員間で情報共有している。その情報からご利用者の介護計画の見直しに活かしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的に受診等が必要となった際には、母体施設のサンホームみやこ職員と連携をとって対応したり、管理栄養士や機能訓練指導員など多職種の協力を得ながら、利用者やご家族からのニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元自治会の行事や地域の方、近隣小学校との交流、地域の方々とも積極的に交流し行事なども楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう、ご家族とも連絡を調整し速やかに受診できるようにしている。	認知症の診療を主として、全員が入居前からのかかりつけ医を継続されている。急性期は県立病院を受診している。通院には家族の付き添いを原則としており、通院の都度、管理者からの健康状況等を持参して頂き、通院後には結果報告をしていただいている。看護師等の配置がないが、経験豊富な職員が多く、また、母体施設の看護師からの助言を受けながらスムーズな受診等対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を捉え、そこから生じる急変を予測して早い段階で職員間で相談しながら、状態悪化を防ぐべく速やかな受診を行っている。ご家族の協力が難しい時はサンホームみやこ職員とも連携して柔軟に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、ご家族の同意を得た上でご本人に関する情報提供を行い、医療関係者とも連絡を取り、短期間での退院につながるよう努めている。		

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状況を常にご家族に伝え、重度化した場合は随時ご家族と今後の方針や施設での対応力などについて説明している。母体施設(特養)への継続的移行を話し合うなど、ご家族には安心を抱いて受け入れられている。	入居にあたって、高齢の方の身体の変化や今後の見通しなど丁寧に説明し理解をいただくようにしている。転倒などで歩行が難しくなったり重度化した際には、介護度の見直しや特養施設などへの移行について提案している。通院時、面会の都度、生活状況や心身の状態を共有し、特養施設の費用面等家族の不安に寄り添うように努めている。これまで、看取りを希望される利用者はいない。重度化の判断として、転倒リスク、一般浴槽での入浴が難しい、刻み食やミキサー食など栄養面での管理が必要、医療のケアが多くなってきた場合を目安とし、適時家族に状態をお伝えし一緒に考えていただくようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいて、手順や方法の周知徹底や心肺蘇生法、AED仕様方法の訓練を実施し、緊急対応のスキルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施消防署員立ち合いで、日中想定や夜間想定など様々な場面を想定した訓練を行っている。	年2回夜間想定、日中の火災対応訓練を行っている。法人内高齢者福祉サービス事業所部門での事業継続計画を整備し、母体施設との連携や事業所単体での対応について明確にしている。災害発生時の避難場所は地域の小学校となっているが、母体施設が福祉避難所に指定されており、臨機の判断対応としている。災害備蓄として、母体施設と併せ、米、オムツ等を備蓄している。地域との連携、協力について、認知症カフェの場で事業所の紹介等を行っているが、継続的な理解、周知の取組みが課題と思われる。	火災、災害発生時には、地域住民と連携、協力が重要と思われます、今後の地域との連携、相互協力の構築について検討を期待します。

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の運営方針を念頭に、一人ひとりの人格を尊重して、気持ちに寄り添った対応を行っている。	入居にあたって生活歴、習慣、呼称など細かく聴き取りし、一人ひとりの「昔とった杵柄シート」として、日々のケアに活用している。スピーチロックなど不適切と思われるケアがあった場合には、事業所全体のこととして、会議等で共有、究明し改善につなげている。	
----	------	--	--	---	--



令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者からの話や要望を聞きながら出来るだけご希望に添えるよう対応を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個性と持てる力を発揮しながら、ご本人が自然なペースで一日を過ごせるような柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にご本人が好む衣類を用意して頂いている。通院などで外出の際は、その日の気候に留意しながらおしゃれをして出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食事形態で提供できるよう配慮している。また、出来る方には食事の準備や片づけをしてもらっている。ただし、コロナ感染症対応の為、職員はご利用者と一緒に食事をしていない。	毎月のケアカンファレンスに母体施設から管理栄養士が参加し、個々の栄養状態を確認し、献立、食形態等への助言を受けている。夕食をケータリングに替え、魚料理が増え、食事準備にあてていた時間を行事、通院等の時間に転換できるようになった。食材の下拵え、調理、盛付け、片付けなど出来る部分に利用者に参加してもらい、敷地内の菜園で、キュウリ、トマト、サツマイモなどを育て、食材に使用している。好物の食材を家族が差入れする場合もある。全員で外食の機会はないが、通院帰りなどに家族とお馴染みの店で外食を楽しんで来られる利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の体調や嚥下状態に応じた食事形態の工夫や嚥下の見守り、声掛け等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、義歯と歯ブラシは除菌を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人にあった排泄用品を使用している。失禁が多いご利用者も可能な限りトイレ誘導を行っている。	日中は、ほぼ全員の利用者がトイレを使っている。3、4名が時間をみながら誘導しているほかは、自主的にトイレに行くことができる。排泄時間、量等をパソコンで管理し誘導の声掛けや適切な下着着用など、自立の維持につなげている。トイレの場所がわからない利用者は、仕草や言動から判断し、さり気ない誘導を心掛けている。便秘が続く利用者には医師から下剤を処方してもらい、午前、午後の水分補給、体を動かすことを意識している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事を心掛け、水分も十分な量を摂取できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施している。一対一で入浴を行い、ゆったりと入浴ができるようにしている。	月曜から土曜の午前を入浴時間としている。個々の希望で午後に変える利用者もいる。身体の清潔維持のほか、身体状況の把握の機会としている。入浴を拒む利用者、声掛けの仕方を職員間で共有し、誘導するようにしている。福祉用具業者と連携し、安全な入浴等、重度化への対応についても相談している。普段は市販の入浴剤を使用しており、端午の節句の時期には菖蒲湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお手伝いリハビリや余暇活動を行い、できる限り身体を動かし、夜の熟眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の内服している薬情報を個々のケースファイルで把握している。服薬支援を行い、状態の変化がないか把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のお話をよく聞き、出来る事、ご本人が楽しめることなどをケアプランに盛り込み、精神的にも安定された生活が出来るようにしています。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、在宅で生活されていた時と同じように、欲しいものを買う、なじみの場所に行く、というご利用者の希望を大切にしながら、外出支援をしている。	大型客船の見学に出掛けたり、隣接のさくら公園の桜の花見、浄土ヶ浜へのドライブ、ゆったり館での紅葉見学、自宅周辺を巡ったり、新装した宮古市役所の見学にも出掛けている。希望により近隣のスーパーに日用品や季節に合わせた洋服などの買い物にも対応している。墓参りを希望される利用者もおり、今後の実施に向けて検討していきたい。普段から暖かい日は出来るだけ屋外の散歩を提供するよう、ケアプランにも反映させている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しく職員が管理しているが、買い物の際は、個々の財布を持って出かけ、職員の見守りで行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望により取り次ぐなど、自由に電話を使用できるようにしているほか、4か月毎に近況報告とともにご本人からご家族に伝えたいことを記入して頂き、写真付きで送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭から採った季節の花や植物を食卓や洗面所に飾り、季節感を大事にした環境作りを心掛けている。リビングからは家庭菜園が眺められ楽しむことができるようにしている。	日中は、居室で過ごすことはなく、皆さん南向きの陽当りの良いホールで一緒に過ごしている。ホールには、ソファ、テーブルなどを配置し、体操やレクなどの活動のほか、畳のスペースでは洗濯物の畳み方や雑壇を展示したりしている。いつも季節を感じられるような雰囲気を意識した装飾等を、職員と一緒に作成し展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日の殆どをリビングで過ごされ、ソファ、テーブル席に気の合う同士テレビを観ながら、お話をしたり、好きな音楽を聴いたりとお過ごされている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームサンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	ご家族の写真や椅子、テーブルなど、使い慣れ た生活用品、着慣れた服、寝具等に囲まれた居 室はご利用者の気が休まる空間になっている。	各居室にはベッド、クローゼットが備え付けてい る。床暖房があるが、夏季は、共用部のエアコン を扇風機で居室に送風して温度管理を工夫して いる。家族写真、誕生プレゼントを掲示してい る。カラーボックス、ラジオ、使い慣れた布、衣類等 を持ち込まれている利用者がいる。居室は、朝食 後にモップで拭き方をしてもらっている。衣替え、 寝具等の入れ替えは現在は、居室担当者で行っ ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かる工夫、自分の排泄用品の始末がで きる工夫、自立に向える支援をしている。		